

厚生連

KOUSEIREN

麻酔について

皆さんは心筋梗塞とか脳梗塞という病気についてよくご存知だと思いますが、この二つに今回お話しする肺血栓塞栓症（肺梗塞）を合わせて三大塞栓症と言うことを知っていらっしゃる方は非常に少ないと思います。日本では肺血栓塞栓症はほかの二つの病気と比べて比較的に薄いな病気と考えられ、馴染みが薄く今まであまり注目されていなかったようです。しかし、日本で最近の発生率をみますと（※1）、肺血栓塞栓症は決してま

※1

肺血栓塞栓症の発生頻度 (人口10万当たりの発生人数)	
肺血栓塞栓症:	7人程
心筋梗塞:	30人程
脳梗塞:	70人程

れな病気とはいえない事がわかってきました。
肺血栓塞栓症とは

長い時間同じ姿勢でばかりいると脚の筋肉の静脈に血の固まりができてしまいます（この病気を深部静脈血栓症と言います）。この血栓が何らかのきっかけで突然流れ出し、肺の血管をつまらせることがあります。これが肺血栓塞栓症という病気です。皆さんがよくご存知の「エコノミークラス症候群」は肺血栓塞栓症の一つに含まれます。また、肺血栓塞栓症は大きな地震災害後の避難生活の中、水分の摂取が不十分であったり、狭い車中で寝泊まりした方々にも発生しやすい病気です。

入院手術と肺血栓塞栓症

実は最近、手術を受ける患者さんで深部静脈血栓症となり、入院中、特に手術の前（この期間を周術期と呼びます）に肺血栓塞栓症を起す可能性がある事がわかってきました。日本麻酔科学会の調査（2003、2004、2006年）によれば、1万件の手術で

※2

入院中の深部静脈血栓症の予防

- 1). 積極的な足首の運動と歩行（早期離床・早期歩行）
- 2). 十分な水分補給
- 3). 弾性ストッキングの着用・間欠的空気圧迫法
- 4). 薬物服用（抗凝固療法）

ベッド上でできる運動

足あげ

3・6人から4・8人の患者さんが周術期の肺血栓塞栓症になるという結果が得られました。
周術期肺血栓塞栓症の症状と特徴について

長い時間ベッドの上で安静にしていた人が、歩行を開始したりトイレに立ったあとに、急に動悸がしたり、息苦しくなったり、めまいや失神を来した時にはこの病気が疑われます。症状は心不全や重症不整脈と似ていますが、治療法は異なります。そのまま放置すると命にかかわることもあり、急な手当が必要となります。気になる症状が少しでも出たら遠慮せず医師に伝えてください。
周術期肺血栓塞栓症にならないために

肺血栓塞栓症は命にかかわる病

気で、治療法も限られていることから、肺血栓塞栓症になるリスクの高い人ではいろいろな予防策を試みます（※2）。なかでも肺血栓塞栓症の発生を防ぐにはその主な原因である深部静脈血栓症にならないのが一番です。

周術期のみなさんには非やって頂きたい予防法はベッドの上で足を少し（15cmほど）高くして寝たり、ベッドの上で足首の運動を行ったり、なるべく早く歩行を開始して、脚の血液循環を良くすることです。脚の筋肉を充分に動かすと血液は筋肉のポンプ作用によつてうづ滞する事なく心臓にもどつてゆき血栓の形成を防ぎます。

おわりに

以上、手術や入院を機会にして発生頻度の高まる肺血栓塞栓症について簡単にお話しさせて頂きました。肺血栓塞栓症は命にかかわる病気、治療法も限られていることから予防が第一となります。普段からご自身の健康管理に留意して頂くほか、いざ入院手術となった場合には、より積極的に脚の運動を行い血液の循環を保つように心がけて頂けたら幸いです。

埼玉厚生連 熊谷総合病院
麻酔科医師 第1診療部長
中村 信一